



福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティ・ペーパー

「そうま・かえる新聞」 2015年12月 第21号

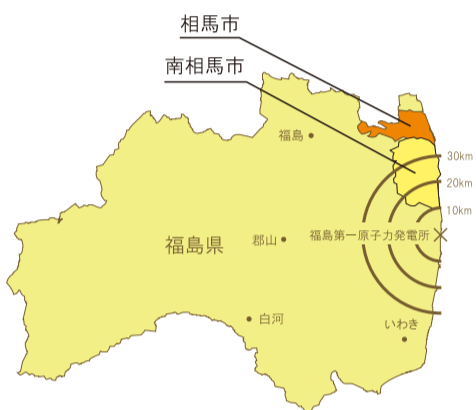
発行所：そうま・かえる新聞編集部

〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内
問い合わせ・配達希望：somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため
わたしたちは生き方を「変える」。
いのちを何よりも大切に「考える」。
まちをゲンキに「変える」。



<http://somakaeru.com>



★そうまなぞなぞ 方言編 その13
「うつつあしいってなんだ？
例)「このハエさっきからうつつあしいな！」

喜ばれる家を建てたい

相馬市の建築業、力田好博さん



▲力田好博さんが経営する力田工務店

力田さんは、相馬市で3代続く「力田工務店」の3代目です。南相馬市の原町工業高校(その後松栄高校と名前が変わりましたが、2011年の原発事故の影響を受け、14年3月で廃校となってしまいました)卒業後、会社員を経て、祖父の留造さんが創業した工務店で働いてきました。

仕事は建物の基礎作りから屋根葺き、足場づくりから溶接まで多岐にわたります。

11年3月11日、東日本大震災が発生した時、力田さんは相馬市内で住宅の増築作業中でした。建物の中で大きな揺れを感じました。揺れに驚いて外に出て来たその家の家族のおじいさんに、「危ないから中に入れ!中は、俺が建てた家だから大丈夫、倒れないから!」と思わず叫んだといいます。その時は、相馬の街にまさか津波が来ることなど想像もしていませんでした。

夕方、その家の家族が全員そろったところを見届け、ようやく、相馬市内の自宅アパートに戻りました。幸い自宅は無事でしたが、余震が続く中で、東電福島第1原



▲丸のこで木材を切る力田さん

発で事故が発生します。力田さんも最初は家族で会津地方の北塩原村に避難しましたが、その後は家族を新潟に避難させ、力田さんは仕事のため、1人で相馬市に戻りました。

仕事は山積みでした。毎日、屋根に登り、補修する日々が何カ月も続きました。大きな揺れで、屋根瓦が壊れた家がたくさんあったためです。応急措置として屋根にブルーシートをかけ続けました。

海に近い、磯部地区などでは、たくさんの家が津波の被害に遭いました。忘れられない光景があるといいます。自衛隊や警察が行方不明者を捜索しているすぐ横で、作業をしていると、あたり一面、何か腐ったような生臭い匂いがします。カラスがたくさん集まり、鳴いている場所がありました。「もしかして、あそこに誰か...いるのかも...」そう思っていたところ、そこから遺体が発見された、後からわかりました。

「行方不明の方がもししたら、他にも近くにまだいるのかもしれない」と、いたたまれない思いを抱きながら、ひたすら家の修復をする日々が続きました。その間、余震にも何度も見舞われ、屋根の上で揺れを感じることも、しばしばでした。

津波が床上浸水した家にも補修に入りました。昔ながらの家は、今と違って床下に簡単にぐれる構造に

東日本大震災以降、東北の建設業の現場は、多忙を極めています。震災からまもなく5年を迎える今も、被害を受けた家の補修は続いています。資材の値段は高騰し、人手不足の中、黙々と毎日の仕事に取り組む相馬市の力田好博さん(41)に、震災当時のことや、現在の日常をうかがいました。(堀下さゆり/相馬市出身)

なっています。その床下の空間から、津波に流されたゴミやがれきに混じって、ご遺体が発見されることもあったといいます。

「1年くらい続いた相馬市一帯での応急処置が徐々に落ち着いて、家につけられたブルーシートをようやく見なくなってきたのは、3年くらい経ってからだね」と力田さんは振り返りました。

14年ごろからは、地震ではがれた壁や家の傾き、床の修理が増えました。まもなく震災から5年になる現在でさえも、まだまだ震災による爪痕の補修依頼が続いています。資材の値段は震災前に比べて2~3割上がり、人手も不足しています。しかし、相馬地域の建設現場の賃金は、東京などの大都市に比べればまだまだ低く、人手を確保するのも、厳しい状況が続いています。

「今まで必死に目の前の仕事をやってきた」という力田さん。縁の下の力持ちとして、市民の暮らしを支えてきました。「仮設住宅にいた人が、家を新築して、ずっと抱えていたストレスがなくなったりするのを見てると、ああ良かったなあ、と思います。これからもみなさんに喜んでもらえるような家を建てていきたいですね。まだまだ、忙しい日々は続きますが、力田さんは笑顔で語りました。



▲木材を組み合わせ、壁の下地をつくる力田さん

そうま
×
広島

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

「福島・相馬を想う」 KAZEASHI 加是葦アツシ(広島市在住)

広島市を拠点に、横山風之助とアコースティックロックバンド「KAZEASHI(カゼアシ)」として活動しています。会社員として、仕事をしながらの活動で、地方の草の根ですが、広島市で相馬のことを応援するライブ「スモール・ロックン・タイム」を企画・開催しています。集まった募金は、全額「相馬市・南相馬市応援プロジェクトMY LIFE IS MY MESSAGE」へ送らせていただいています。

きっかけは、山口洋さん(HEATWAVE)のブログでした。震災から1年たったころ、福山にあるポレポレというカフェで復興応援ライブを毎月開催していることが書かれていました。それは出演者自身がひとり500円募金して演奏していくライブで、山口さんの名付けた「ポレポレ方式ライブ」との出合いでした。私たちは2012年4月から、毎月広島から参加しています。その後、山口さんのライブのオープニングアクトをさせていただいたり、広島でポレポレ方式ライブを開催したりしています。

ここで、少しだけ私の身内の話をさせていただきます

ます。1945年8月6日、私の父は2歳の時に祖父母たちと共に原子爆弾の被害にあいました。爆心地から1600メートル地点でした。地獄のようなその状況を生き延びたのは奇跡としか言えませんが、祖母が動けない家族を大八車に乗せて郊外の農村にたどり着き、農機具小屋を借りて数年間を過ごしたようです。しかし被爆者の多くはその後も放射能による苦しみがありました。当時は放射能に関する知識など無いに等しい状況の中、周囲から「ピカドンにやられた者は毒ガスを吸っとなげ、どうせ死ぬじやろう」などと言われ、疎ましい存在として敬遠された方も多かったようです。日本全国からも、戦後復興ムードの中で「広島(長崎もどかと思います)の者はいつまでも苦しい」とい言続ける。被害を受けたのはどこも同じなのに」という主旨の言葉を浴びせられたようです。じっと黙って耐えるしかなかった状況は、1954年、ピキニ環礁でのアメリカ水爆実験でマグロ漁船第五福竜丸がいわゆる死の灰を浴び、被曝した船員が亡くなったニュースが目目されてから



▲熱演するKAZEASHIと、ポレポレ店主の手島裕さん(中央)

変わり始めることになります。

私など、まさか広島や被爆2世の皆さんの代弁などできません。しかし、私たちは今、東電福島第1原発事故の後始末もできないままにオリンピックや復興ムードが盛り上がり各地の原発再稼働が進められている中で、相馬の抱えている悔しさや苦しみ、やりきれない気持ちを「忘れていない」と言い続けなければならぬと思いました。それなら、少しは私たちにできるかもしれませんから。

様々な問題が複雑に絡み合い疲れてしまった相馬を、私たち草の根は、小さな声でも応援し続けたいと思うのです。個人的なことでも恐縮ですが、それは祖母から話を聞いて私自身の心の奥に刺さったままになっている棘と対峙していくことでもあるからです。

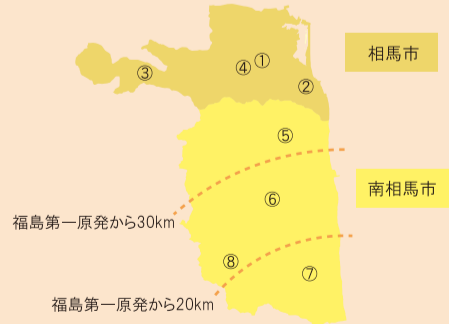
ポレポレ方式の応援ライブは、出演者自身がひとり500円を募金して演奏していきます。これが、まさに自分自身の問題として相馬を想い続けることに繋がるライブになっていると思います。プロもアマも、初心者もベテランも、暮らしている場所も関係なく、共にポジティブなエネルギーの連鎖を信じていることができると思っています。今後も福山・ポレポレに通い続けながら、広島でも地道にポレポレ方式ライブを開催していきます。私たちは、広島・福山から、福島・相馬を忘れずに想っています。

KAZEASHI HP: <http://kazeashi.w-orange.net/>



▲広島市のカフェ・テアトロ・アビエルトで開いたポレポレ方式ライブ「Small Rock'n Time」=2015年11月8日

相馬市・南相馬市放射線レベル測定値 (2015年11月30日 単位=マイクロシーベルト/毎時)



①相馬市総合福祉センター(はまなす館)	0.175 (△0.020)
②磯部小学校	0.077 (0.010)
③玉野小学校	0.228 (△0.019)
④馬陵公園長友グラウンド	0.129 (△0.008)
⑤鹿島区役所	0.171 (0.004)
⑥南相馬市役所(原町区)	0.144 (△0.004)
⑦小高区役所(避難指示解除準備区域)	0.078 (△0.009)
⑧鉄山ダム(居住制限区域)	1.833 (△0.098)
東京(前橋区 東京都健康安全研究センター)	0.031 (△0.001)

カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。

みんなのしあわせ音楽会レポート

音楽で相馬を元気に 菅野とし枝/相馬市

11月21日、相馬市総合福祉センターはまなす館で、「みんなのしあわせ音楽会」が開かれました。主催はNPO法人みんなのしあわせプロジェクト。相馬で、音楽やアートをキーワードに、障がいのある人もない人もひとつになって生きていける世の中をしたい、そんな願いを込めて立ち上げられたプロジェクトです。

このプロジェクトのリーダーで、昨年まで南相馬の自立研修所えんどう豆で働いていた佐藤定広さんを応援したいと出演者の皆さんが集まってくれました。

プロジェクトのキーワードの一つである音楽でイベントを開催しよう!ということで開かれました。

出演者はまず島根から浜田真理子さん。浜田さんは震災後、福島を思い、感じ、考え、学ぶ「スクールMARIKO」を開催しています。佐藤さんも講師として参加し、相馬や南相馬の現状を島根で伝えてきました。

1-GATAは元THE BOOMのベーシスト山川浩正さんを中心に結成された3人組ユニットで、3人とも1型糖尿病を患っています。1型糖尿病という病気を広く正しく知ってもらうため、同じ1型糖尿病の人達にこの病気にかかってもなんだったやれるということを伝えるため、



▲1型糖尿病についての解説



▲福島を思い、感じ、考え、学ぶ「スクールMARIKO」の紹介

そして病と戦う人達に元気を与えるため、活動しています。山川さんは2年前に相馬に来てくれて、それ以降ずっと相馬のことを思いやってくれています。

そして地元相馬出身の堀下さゆりさん。母となりたくまじさを身につけながらも、持ち前のほんわかとした雰囲気はパワーアップ。新しい目線から生まれる曲たちが新しい魅力となっています。

えんどう豆のみんなと、相馬の障がい児放課後支援グループゆうゆうクラブも参加してくれました。



▲音楽やアートを軸に「障がいのある人もない人もひとつになって生きていける世の中をしたい」というNPO法人みんなのしあわせプロジェクトの展示

当日はたくさんの市民や、遠くから駆けつけてくださった方々のおかげでとても温かい時間となりました。

ロビーにはそれぞれの活動を知ってもらうためのブースや、究極の相馬たまごかけごはんの販売、えんどう豆や南相馬ファクトリーのグッズ販売やえんどう豆のくるみちゃんの絵画展も。

コンサートは1-GATAのステージからはじまりました。元気いっぱいハツラツとした中に、真っ直ぐ届くメッセージの数々。1stシングル「キミ」は、1型糖尿病をキミと称し、病気になったがゆえの苦難や辛い気持ちとともに、そこから得たものへの感謝の気持ちが綴られていて、わたしたちの曲を福島と重ねてしまいます。1型糖尿病も原発問題も元に戻すことはできないけれど、受け入れてうまくつき合っていくことはできるはず、と。



▲会場を笑顔にしたえんどう豆のメンバーらのステージ



▲音楽でまちを元気に、イベントを盛り上げたメンバー

続いてえんどう豆のみんなが登場。ピアノとギターの伴奏と共に、ウクレレやマラカスを巧みに操り、心から音楽を楽しむ。その純粋な姿に会場中が笑顔に包まれました。最後にはみんなで大きな虹をかけた。

そして堀下さゆりさん。彼女がステージに立つだけで空気が優しくなります。母親としての目線での歌が増えていて、なんだか私も両親に感謝の気持ちで聞いていました。



▲暖かな雰囲気の中、堀下さゆりさんのステージ

ゆうゆうクラブはビデオでの出演となりました。会場が食い入るようにその活動を見ていました。ラストは浜田真理子さん。深く深く、引きずり込まれるその歌の世界。言葉一つ一つを大切にしている、それがずーとこちらに入ってきます。いろいろな風景を思い浮かべながら聞き入ってしまいました。終わったあとのなんとも言えない心の静けさがたまりませんでした。

最後はみんなで「上を向いて歩こう」を。会場も一緒になって、最高の笑顔が溢れました。

終わってみると、会場の笑顔、出演者の笑顔が心に残っていて、とても清々しい気持ちです。

音楽の持つ力は無限です。人を元気にしてくれるし、励ましてくれる。慰めてく

れるし、アドバイスもくれる。来場してくださったみなさんが口々に「楽しかった」「また次も来たい」と言ってくださっていて、私もたくさんパワーをいただきました。

今回のイベントにあたり、たくさんの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございます。

これからも、音楽で相馬を元気にしていくお手伝いが出来たら、それが私の生かされている一つの理由かな、と思っています。

引き続き、福島を思い続けていただけたら嬉しいです。ありがとうございました。



▲観客を引き込んだ浜田真理子さんの演奏



▲パワフルな演奏を繰り広げた1-GATA

つながりを感じた音楽会 佐藤定広/相馬市

相馬で、11月21日に開かれた「みんなのしあわせ音楽会」には、たくさんの人に来ていただき、会場は、ほぼ満員の状態になりました。遠くは島根、鳥取、大阪、香川、東京などからも来ていただきました。

音楽会は、障がいのある人もそうでない人も音楽を楽しもうという趣旨で、プロのミュージシャンの他に、相馬市の障がい児の放課後支援「ゆうゆうクラブ」や、南相馬市の自立研修所「えんどう豆」の皆さんが参加してくださいました。ミュージシャンは、震災と原発事故の後、支援に入ってくださった方たちで、ずっとつながっていて相馬に来て音楽会に参加されたのです。

1-GATAのステージは、本格的なロックで会場をノリノリにしました。「1-GATA」は、1型糖尿病を患っている人が、その病気を知ってもらう目的で結成したバンドです。ベースの山川浩正さんは、THE BOOMのベーシストです。THE BOOMの一部のメンバーでつくる「やまたかどちぎ」のライブが、相馬の菊地蔵であった時に、えんどう豆に遊びに来てくれました。当時、山川さんは病気になる前でしたが、その後、1型糖尿病になり、「1-GATA」を結成して活動しているそうです。

糖尿病は、インスリンというホルモンが不足して、様々な合併症を引き起こしますが、1型糖尿病は、インスリンを作る膵臓の細胞が何らかの原因で壊されて、イン

スリンが作られなくなるため、糖尿病になります。発症するのは1年間に10万人に1人だけ。珍しい病気のため、あまり知られていません。その多くは子どもたちなのだそうです。

えんどう豆は、みんなで歌い踊り、元気を届けました。「僕は相馬すきだよ」は、あべ光俊さんの曲に、相馬をイメージした歌詞をつけた曲で、震災の時のふるさとへの気持ちが込められています。まけないタオルは、山元町(宮城県)の早坂文明さんが作詞し、やなせなさんが作曲しました。タオルを振りながら歌う姿は心を打つものがあったようです。最後に復興支援ソングの「虹をかけよう」をみんなで歌い、ステージを盛り上げました。震災後、誰もが不安だった中、毎日とっていいほど歌をうたってきたえんどう豆のメンバーを、地元の人にも見てもらえ、良かったと思います。

堀下さゆりさんは、相馬出身のシンガーソングライターです。震災後、相馬、南相馬の幼稚園、小中高全22校を回り1307人とCDを作り、暗いムードだったまちに、子どもたちの声で、元気を与えてくれました。今ではお母さんになって、音楽活動を続けています。ふつうの暮らしを大事にしている、「しあわせになってね」といったメッセージが込められているように思います。

ゆうゆうクラブは、震災後、行き場を失った障がいの子どもたちのためにできた団体で、放課後支援を行っています。映像で子どもたちが紹介され、ピアノや太鼓で音を楽しむ、生き生きとした姿がすてきでした。

そして、島根県のシンガーソングライターの浜田真理



▲オリジナルグッズなどを販売するえんどう豆のメンバーら

子さんのステージです。ピアノの弾き語りには、言葉と音を大切にしている、空気が変わるような世界観で、会場の皆さんが聴き入りました。

浜田さんは、地元の島根で原発などについて学ぶ勉強会「スクールMARIKO」を主催しています。島根も原発が近くにあり、震災と原発事故が起きた福島のことを他人事にしないで考えよう、福島に縁のある人や専門家らを招いて勉強しています。そうま・かえる新聞の編集部も島根に招かれて話をしてきたことがあり、今回の音楽会に浜田さんが参加してくださいました。「スクールMARIKO」のメンバーも、たくさん福島に来てくださり、現状を知ってもらえ、きっかけになったと思います。

出演者以外でも、興味深い見所もありました。会場にあったピアノは、半年以上使われていませんでしたが、宮城県の調律師、今野文英さんが愛情を込めて仕事をしてくださいました。弦を拭いたり、ピアノの一部を分解

しながらの作業。見ていると職人の美しさを感じました。堀下さんの演奏が終わり、浜田さんのステージが始まる時、ピアノに駆け寄り鍵盤を拭いていました。音楽に関わる人のプライドののかな。手作りの音楽会なので、会場の片付けや大道具は自分たちで取り組みましたが、音楽会終了後、持ち込んだ木製のステージを片付ける時に、スーツを着ている今野さんも手伝ってくれたことに、頭の下がる思いでした。

エントランスホールには、スクールMARIKOをはじめ、各団体を紹介するパネルコーナーやえんどう豆の販売ブースが設けられました。食味分析鑑定コンクール国際大会で世界一になった佐藤定広さんの作った米に、相馬の大野村農園の放し飼いのニワトリが産んだ卵をかけた、スペシャルごはんが人気でした。震災からもうすぐ5年。人と人をつながっている音楽会だったなあと感じます。



▲卵かけごはんを販売した大野村農園のオーナー

ひろがる つながる

そうま・かえる新聞を配布して下さっている全国各地のお店を紹介します

《beer spirits & music smoke》

2000年7月から宮城県仙台市の文化横丁でsmokeというロックバーをやっています。お店は4坪、9席のみですが、ルー・リード、パティエ・スミス好きの店主がお客さまをお待ちしております。仙台市も東日本大震災の被災地ですし、福島県からのお客さまもいますので、毎回、興味深く読ませていただいています。

smoke 石田

SHOP INFORMATION

〒980-0811
仙台市青葉区一番町2-4-8 菅原ビル3F
☎022-215-6064
定休日：日曜 & ハッピーマンデー

編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさんのお愛のあるサポートをいただいて「そうま・かえる新聞」は発行されています。9/1~11/30までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、87,000円です。ご支援、本当にありがとうございます。

次号は2016年3月発行予定です。

【そうま・かえる新聞】
2015年12月 第21号

発行元 そうま・かえる新聞編集部
http://somakaeru.com

連絡先 そうま・かえる新聞編集部
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただくと幸いです。

- 郵便局からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290
番号/30483531
- 他銀行からお振り込みの場合
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読みハチニハチ)
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/3048353
口座名/そうまかえる新聞編集部

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3
モリタミュージック内
編集 相馬市・南相馬市ほか有志
協力 かえる新聞(いわきの子供を守るネットワーク)

★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。